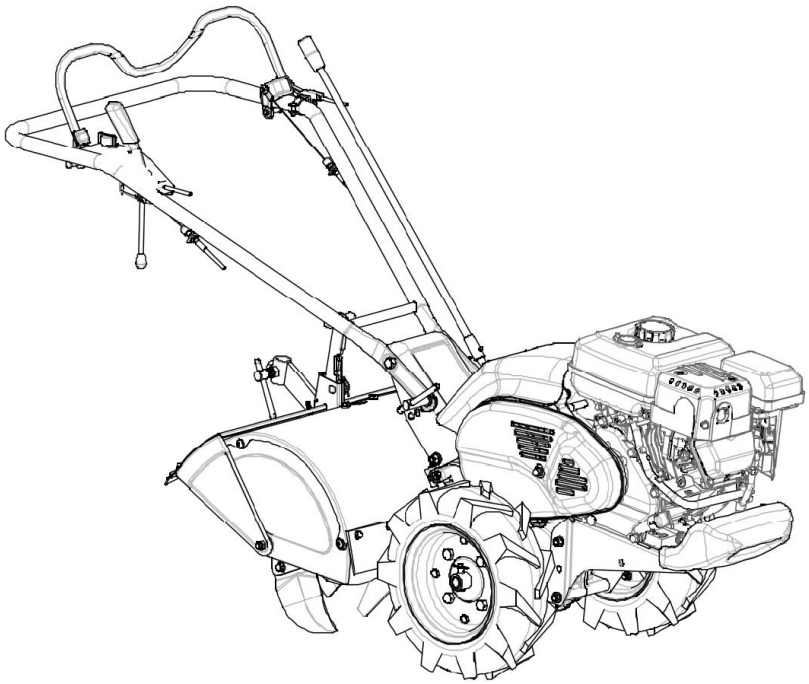
改訂-01

KIORITZ

共立ミニ耕耘機
KR601

取 扱 説 明 書



0031-77800

●取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
●本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
●取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。
●安全性維持のため、別紙点検表に従い年次点検をお受けください。（有料）
●各種サービスをお受けになる際には必ずメーカー純正部品とご指定ください。

※快適作業を維持するため、製品の定期点検を励行しましょう。

目　　次

項　　目 ..... 頁

《はじめに》 1
《定義とシンボルマークについて》 1
《本製品の規制について》 1
《重要なお知らせ》 2
《保証・契約書・免責事項》 2

1. ご使用の前に〈必ずお読みください〉
1.1 作業条件 3
1.2 作業をする前に 3
1.2.1 作業前の注意事項 3
1.2.2 作業前の点検・確認 4
1.2.3 火気厳禁・燃料の給油 4
1.3 作業中は 5
1.3.1 作業中の注意事項 5
1.3.2 操作上の注意事項 5
1.3.3 作業中の点検・停止・清掃 6
1.4 積み降ろし及び運搬時の注意 6
1.5 点検・整備 7
1.6 保管時 8
1.7 警告表示マーク 8

2. 各部の名称とはたらき
2.1 各部の名称 9
2.2 各部のはたらき 10
①主クラッチレバー 10
②変速レバー 10
③デフロックレバー 10
④耕深調節棒 10
⑤らくらくアンカー 10
⑥ジャッキボルト 11
⑦回動ロータリーカバー 11
⑧耕うん爪 11
⑨スロットルレバー 11
⑩エンジンスイッチ 11
2.3 方向について 11

3. 作業前の点検
3.1 エンジンオイルの点検 12
3.2 燃料の点検・給油 13

4. 運転・作業のしかた
4.1 エンジンの始動・停止のしかた 14
4.1.1 エンジン始動のしかた 14
4.1.2 エンジン停止のしかた 15
4.2 走行・変速・旋回・停止のしかた . 16
4.2.1 走行のしかた 16
4.2.2 旋回のしかた 17
4.2.3 変速のしかた 18
4.2.4 停止のしかた 18
4.3 上手な作業のしかた 19
4.3.1 作業のしかた 20
4.3.2 耕うん深さの変えかた 20
4.3.3 ハンドル高さ調整のしかた 21
4.3.4 平面耕のしかた 21
4.3.5 上手な作業のしかた 22
4.4 積み降ろし及び運搬 23
4.4.1 積み降ろしのしかた 23

5. 点検・整備・調整
5.1 オイルの点検・交換・注油 24
5.1.1 ミッションオイルの点検・交換 . 24
5.1.2 エンジンオイルの点検・交換 25
5.1.3 可動部への注油 25
5.2 エンジン関連の清掃・点検・調整 26
5.2.1 エアクリーナの清掃 26
5.2.2 点火プラグの点検・調整 27
5.2.3 燃料パイプの点検 27
5.2.4 燃料コックの点検・清掃 27
5.3 製品本機関連の点検・調整 28
5.3.1 各部ワイヤ・ベルト調整 28
①主クラッチワイヤ調整 28
②デフロックワイヤ調整 29
③ベルト調整 29
④ベルト押え調整 29
5.3.2 タイヤ空気圧の調整 29
5.3.3 耕うん爪の点検・交換・配列 30
5.3.4 らくらくアンカーの点検・交換 . 30
5.4 長期保管のしかた 31
5.4.1 長期保管の準備 31
5.4.2 次回使用時の注意 32

6. 付表
6.1 仕様（参考数値） 33
6.2 工具袋・同梱品明細 33
6.3 消耗品明細 34
6.4 アタッチメント（別売品） 34

7. 点検表
7.1 定期点検表
7.2 エンジンの不調とその処理方法
7.3 自己診断表

■取扱説明書について

- **本機を使用する前にこの取扱説明書をよくお読みください。**
- **本機を貸与または譲渡される場合は、必ず本機と一緒にお渡しください。**
- **紛失または破損した時は、直接販売店へご注文ください。**

《はじめに》

- ✓ このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。
- ✓ この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただく為に、正しい取扱い方法と簡単なメンテナンス方法について説明しております。
- ✓ ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分に理解し、安全で能率的な作業にお役立てください。
- ✓ お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、紛失や破損された場合は販売店から購入する、またはメーカーホームページよりダウンロードを行ってください。

《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従ってください。

シンボルマーク	定　　義
	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
	その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守または矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。
参 考	操作、保守において知っておくと得な製品の性能、誤りやすい操作に関する事項を示します。

《本製品の規制について》

1) 本製品は農業従事者向けの専用機械として開発されておりますので、これ以外の用途（レンタル等で作業者が特定出来ないような使われ方）では使用しないでください。保証の対象外となる場合があります。

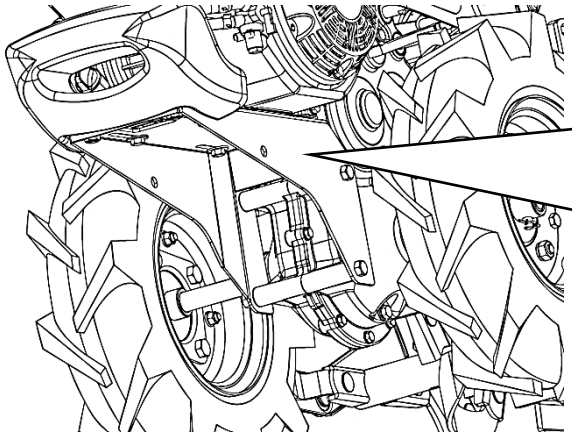
2) 本製品は、日本国内でご使用頂くにために、開発・生産されたものです。
海外の法規・規則・ルール・安全基準などに合致しておりませんので、品質や性能の保証、及び修理のご相談等を含むあらゆるサービスのご提供はできかねますので、ご了承願います。

《重要なお知らせ》

1) 性能・耐久性向上及びその他仕様変更による部品等の変更で、お手元の製品仕様と本書の内容が、一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
2) 本書の内容の一部、または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で定められた場合を除き、著作権の侵害となりますので、予めご注意ください。
3) 本書では説明部位が具体的に理解できる様、写真・イラストを用いておりますが、説明部位以外は省略されて表示されている場合があります。
4) 本書は日本語を母国語としない方へのご使用を対象としておりません。

《保証・契約書・免責事項》

1) 本書とは別に本製品には品質保証書が添付されています。必ず品質保証書裏面の保証規約を熟読頂き、内容を理解しておいてください。
2) 本製品の保証期間は、新品購入から１ヶ年、または累計５０使用時間（請負業務用については６ヶ月間、もしくは累計５０使用時間）のうち、どちらか早い時点で到達した方となっています。
3) 全ての注意事項を予測する事は不可能です。製品を使用する際には作業者側も安全への配慮が必要です。
4) 本書を読んでも判らない場合には勝手な操作はせず、必ず製品お買い上げの販売店（以降販売店）までご相談ください。
5) 製品を安全に効率よくご使用続けて頂く為には定期的な点検・整備が不可欠です。「定期点検表」及び「年次点検表」に記載の定期的な点検・整備を必ず最低毎年一回は販売店で依頼しましょう。（有料）これらの点検・整備を行わなかった事及び仕様を超えた使用・改造等本書に従わなかった事に起因する故障・事故に関しては保証の対象外となります。
6) この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、**製造打ち切り後９年**と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。
7) ご不明な点及びサービス等関するご質問は、販売店までご相談ください。その際は下記の箇所を参考に『**商品型式**と**製造番号・搭載エンジンの型式名**(エンジン本体に刻印または貼付されています。)』を確認し、併せてご連絡ください。



本機「製造番号」貼付け位置

種　類 Desoription	農用トラクタ(歩行型)
型 式 名 Model	KR601
製造番号 Serial No	○○○○○○○○○○
発 売 元	(株)やまびこ
株式会社オーレック Orec Co.,LTD.	MADE IN JAPAN FABRIQUE AU JAPON

1. ご使用の前に〈安全にお使いいただく為に、必ずお読みください〉

1.1 作業条件

警告

1) 本書の内容を理解できない人は使用しないでください。
2) 所有者以外の人は使用しないことが原則です。やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」を熟読し、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導してください。
3) 過労、病気、薬物、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業しないでください。
4) 酒気を帯びた人、妊婦、子ども(中学生以下)、未熟練者にも作業をさせないでください。
5) 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、適切な服装で行ってください。くわえタバコ、巻き(腰)タオルは厳禁です。
6) 製品に応じて、滑り止め(スパイク)のついた安全靴（長靴）やヘルメット（帽子）、防護眼鏡、手袋、スネ当て等の適切な装備を使用してください。

1.2 作業をする前に

1.2.1 作業前の注意事項

危険

排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。屋内など換気が不十分な所では、運転や作業はしないでください。

警告

1) 安全作業の障害となるような本機の改造は絶対にしないでください。
（カバ―の切断、標準品以外の装着、指定外のベルト･オイルの使用、安全装置の取外し等）
〈これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。〉
2) 周囲に人や動物、車両や設備、建造物等の有形資産がない事を確認してください。また、周囲の安全を確認して、圃場内の障害物､側溝､軟弱な路肩など危険な場所や注意が必要な場所には目印などを設けて近寄らないでください。
3) 石やその他の異物は事前に取除き、障害物の位置を事前に確認した後で作業を始めてください。
4) 岩や金属など刃の接触により火花が出るような物は事前に取り除いてください。取り除くことができない場合は目立つような目印を設けて近づかないようにしてください。
5) 転落防止のため、川や崖や段差（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性を考慮し、十分に安全な平坦地を走行してください。
6) 暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できない時には使用しないでください。
7) エンジンや本機に草やごみ詰まりが無いか確認してください。エンジンの焼付きや火災防止の為、作業前に必ずこれらを取り除いてください。

注意

1) 雨天時や水たまり等本機が大量の水を浴びるような条件での使用は避けてください。
2) その他気象条件等に留意し、作業実施の判断や装備の選択に十分配慮してください。

1.2.2 作業前の点検･確認

警告

1) 前回の作業終了後に確認された要修理箇所等について、確実に修理が行われている事を作業開始前に必ず確認し、修理が完了するまでは絶対に作業を開始しないでください。
2) 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている安全装置及び関連部品を外したままの運転は非常に危険です。事故防止のため、これらの部品は必ず装着した状態で使用してください。もし異常がある場合は修理を行い、正常な状態を確認してから作業をしてください。
3) 作業クラッチ（ナイフクラッチ等）が「切」位置の時、Ｖベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合にはエンジンを止め、ベルト押え､ワイヤを調整してください。

1.2.3 火気厳禁・燃料の給油

危険

1) **作業中及び給油中に限らず機械の周辺は火気厳禁です。**引火や火傷の危険があります。くわえタバコ、焚き火等、裸火の使用等は、機械のそばで絶対行わないでください。
2) 給油はエンジン停止後、マフラの温度が十分下がってから行ってください。
3) 給油は油面上限マークあるものは、マーク以下(傾斜地使用の場合には更に少なく)にしてください。多く入れ過ぎた時はマ―ク以下になるまで抜き取ってください。また、こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。
4) 身体に静電気が帯電した状態では行わないでください。気化したガソリンにより引火の可能性があり、火傷、火災につながる恐れがあります。

1.3 作業中は

1.3.1 作業中の注意事項

警告

1) 安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないでください。
2) 無理な姿勢で作業を行わず、体調に合わせ１～２時間程度で休息を取るようにしてください。
作業範囲内（半径１０m以内）に人(特に子供)やペットが入り込まないよう､作業中である旨の立て札やガードロープを張るなどし､半径１０m以内に近づけないでください。人やペットが近づいた時には直ちに作業を中断し、エンジンを停止してください。
3) 運転中、周囲に燃えやすい物や危険物を置かないでください。また排気マフラは高温となります。本機操作時・作業終了直後等に手をかけると、火傷を負う恐れがあります。
4) 斜面での作業は、勾配が１０°以下で使用ください。上下方向よりも横方向（等高線方向）に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちてくる、作業者の足が滑って本機に巻き込まれる等の恐れがあります。
5) 滑り止めなどの注意を十分行って、それでも滑りやすい場所では作業を行わないでください

1.3.2 操作上の注意事項

警告

1) 始動時は走行(主)クラッチ、作業(ナイフ･ロータリー)クラッチを「切」位置にし、中立のあるものは変速レバーを「中立」位置にして、ブレーキがあるものはブレーキを掛けてから始動してください。
2) 斜面での旋回等の操作は十分に注意して行ってください。バランスを崩し、転倒してけがをする恐れがあります。
3) 斜面では、安全のため、変速レバー・クラッチレバー類の不要な操作は行わないでください。スリップ・転落・滑落等の危険があります。
4) バックする時は、人(特に子ども)･動物･障害物がない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖や段差からの転落等がない様足場に注意してください。(該当製品)
5) 木の周りや壁際などの作業時は、ハウスの支柱や木の枝、鉄線等と本機との間に体や手を挟んだり、枝での打撲･挟まれに十分注意して作業を行ってください。
6) 旋回時は特に足元に注意し、作業部(ナイフ･爪など)、走行部(タイヤ･クローラー等)に巻き込まれないようにしてください。
7) 作業(ナイフ)クラッチは、人(子ども含む)や動物がいない事を確認し、安全に十分注意した後に操作してください。
8) 固い圃場ではダッシング(ロータリー回転の反力により本機が前方もしくは後方に勢い良く飛び出すこと)の危険があります。らくらくアンカーは必ず装着し、浅く数回に分けて作業する等、安全には注意をして作業を行ってください。

1.3.3 作業中の点検・停止・清掃

注意

1) 作業中に点検する際は、必ずエンジンを停止し、各部が冷えてから、手を保護するために皮手袋などの丈夫な手袋をして実施ください。
2) 本機より離れる時は、必ずエンジンを止めてください。また、安定した平坦地で確実に停車してください。
3) エンジンを止める際は、該当する製品については次の事を行ってください。
   ①ブレーキをかける。②キーを抜く。③燃料コックを閉める。
4) 運転中の異常な音、匂い、発熱は火災の原因となる恐れがある為、直ちにエンジンを停止し、点検・修理してください。
5) 作業中、異物と衝突（噛み込み）した時は直ちに作業（草刈･耕うんなど）を止め、エンジンを停止してください。そして、必ずナイフ･ナイフステー･爪類（該当製品）及びカバー類の欠けや曲がりの有無を調べ、必要に応じ修正･交換ください。
6) その他作業中、異常を感じたら必ずエンジンを停止してから、点検を行ってください。
7) 冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まり、特に高温となる排気管周辺に堆積した草屑等は注意深く取り除いてください。エンジンの焼付きや火災の原因となります。
   また、外側のみならず、内側もこまめに清掃してください。また、エアクリーナ内部の清掃、ＨＳＴファンカバー（該当製品）に堆積した草屑の清掃も同時に行ってください。

1.4 積み降ろし及び運搬時の注意

危険

1) 本機を運搬する時は必ずエンジンを停止し、燃料コックを「閉」状態にしてください。燃料漏れにより、こぼれた燃料が引火する恐れがあります。
2) 必要以上に本機を傾けないでください。燃料が漏れ出す恐れがあります。

警告

1) 運搬用の車は製品に応じた車を使用してください。(積載重量、荷台のサイズ、干渉の有無)
2) 運搬用の車は平坦で安全な場所を選び、搭載時に動き出さない様にエンジンを止め、サイドブレーキを引き、車輪止めをしてください。
3) ナイフ･爪がブリッジと接触しない位置まで高さを調整してください。また、該当する機種は次の事を行ってください。①作業クラッチは「切」位置。②デフロックを「入」位置
4) 基準にあった丈夫なブリッジをゆるい勾配（１５度以下）で確実にかけ、エンジン回転を下げ、積み込みは「前進」で、降ろす時には「後進」で低速でゆっくり行ってください。
   〈その際、ブリッジ上で走行（主）クラッチを「切」にしないでください。
   また、サイドクラッチ（該当製品）、変速などのレバー操作も行わないでください。〉
5) 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意してください。
6) 運搬時は丈夫なロープ等で確実に固定してください。また、安全運転を心掛けてください。

1.5 点検・整備

◎品質及び性能維持のためには定期点検が不可欠です。

始業前点検・月次点検は所有者ご自身で、年次点検は販売店(有料)へご依頼ください。

〈定期点検を怠ったことによる事故・故障については責任を負いかねますのでご注意ください。〉

警告

下記に記載の内容を守らないと火傷や傷害事故、機械故障の原因となります。

1) ご使用前後に、日常の点検、整備を行う他、定期的に点検、整備を行って常に製品を安全で快適な状態に保つようにしてください。
2) 点検、調整、整備はエンジンを停止し、マフラ部やその他ミッションケースの過熱部位が完全に冷えてから皮手袋などの丈夫な手袋を着用し、適正な工具を正しく使用して行ってください。
3) 点検、調整、整備は地面が平坦で硬く、広くて明るい場所で実施し、常に機体のバランスに留意し、転倒させない様に十分注意してください。
4) 本機を吊り上げて点検する場合には、必ず落下防止を行ってください。
5) 作業部（ナイフ･爪）や走行部（タイヤ･クローラー）の交換や着脱を行った場合は、指定の場所に確実に装着されているか、しっかりと締め付けしているか確認してください。
6) 作業部（ナイフ･爪）や走行部（タイヤ･クローラー）を新品に交換する際には安全のため取付けボルト類も一緒にメーカー純正品の新品と交換してください。
7) ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。作業中に異常を感じた箇所はそのままにせず、必ず作業を中断して点検、また作業終了後に再度点検し、必要な修理をしておいてください。
8) 取外したカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けてください。
9) 指定外のアタッチメント取付けや、改造は絶対にしないでください。
10) 燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。1 年毎、または傷んだ時には締め付けバンドとともに新品と交換してください。

注意

下記に記載の内容を守らないと機械故障の原因となります。

1) 本機を洗車する場合は、エンジン部（電装部、エアクリーナ付近、燃料キャップなど）及び警告ラベル貼付け箇所に水をかけないでください。
2) クラッチ類、スロットル、ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行ってください。
3) シートをかける場合には火傷や火災を防ぐため、エンジンの停止後「約 5 分以上」待って、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認した上で行ってください。

1.6 保管時

警告

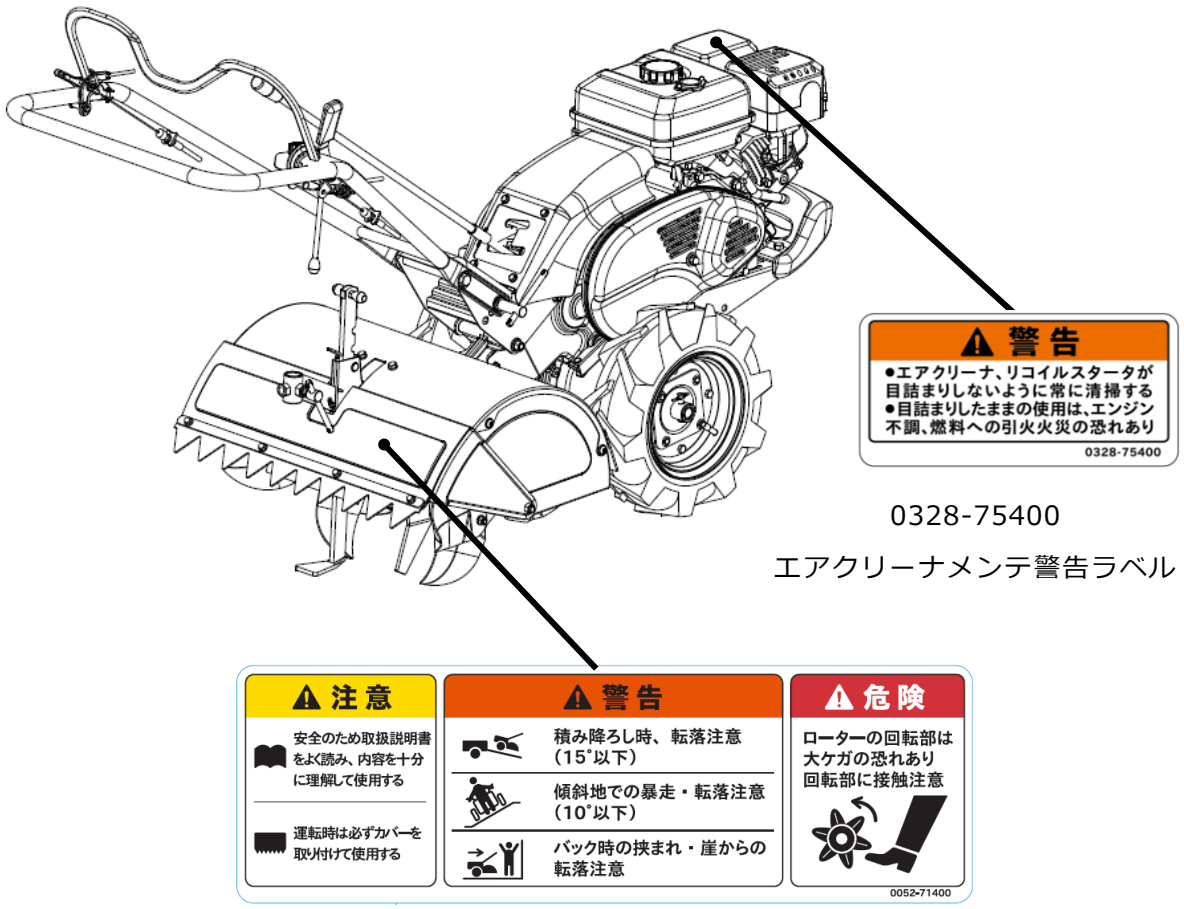
1) 安全のため、燃料コックは必ず閉めてください。
2) 本機を長期保管する場合は屋内で保管ください。〈5.4 長期保管のしかた 参照〉
3) 本体や作業部に付いたごみや付着物・異物は取り除いてください。

1.7 警告表示マーク

警告

●警告表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選され、本体に貼付されています。ご使用の前に必ずお読み頂き、十分理解して必ず守ってください
※警告表示マークが見えにくくなった場合には、必ず同じものを販売店で購入、貼り換える等して常にはっきり識別できるようにしてください。〈6.3 消耗品明細 参照〉

警告表示マーク貼付箇所

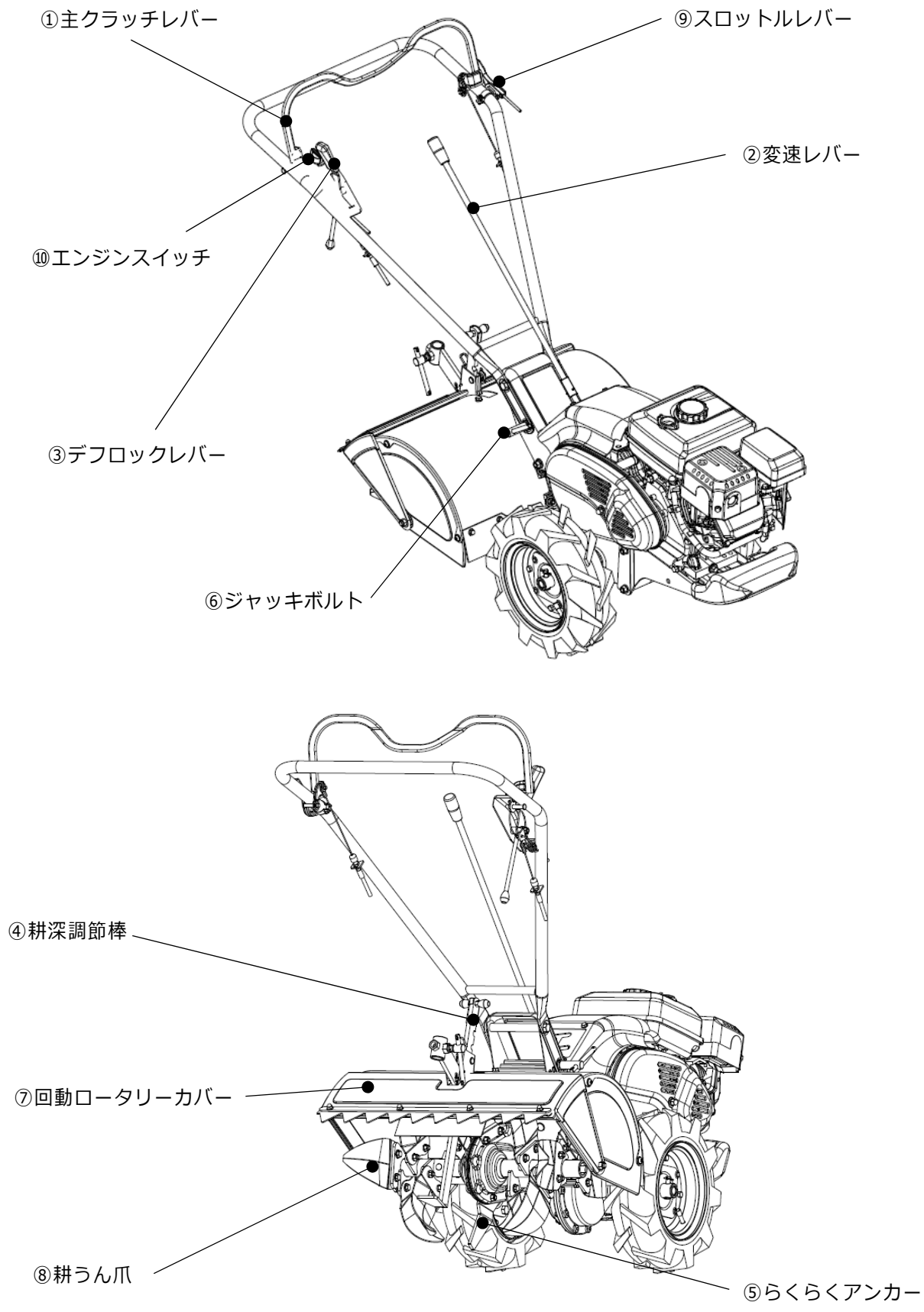


0328-75400
エアクリーナメンテ警告ラベル

0052-71400
警告ラベルＳＦ

2．各部の名称とはたらき

2.1 各部の名称



2.2 各部のはたらき

①主クラッチレバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。レバーをハンドルと一緒に握ると**「入」**位置の状態、離すと**「切」**位置の状態になるデッドマン式クラッチレバーを採用しています。

②変速レバー

走行速度の選択時に操作します。変速は前進で**「①」**、**「②」**の 2 段で、後進は**「R」**の 1 段です。
ロータリーの回転は**「正転」「逆転」**の 2 段あり、共に前進「①」の耕うん作業です。
変速の際は主クラッチレバーから手を離し、本機を停止させた後操作してください。
前進「①」位置ではゆっくりと、前進**「②」**位置ではスピーディーな移動が行えます。

③デフロックレバー

移動時や旋回時はデフロックレバーを**「切」**位置にしてください。耕うん作業中に片側のタイヤがスリップし、直進し難い場合にデフロックレバーを**「入」**位置にすると左右のタイヤの駆動が直結し、直進性が増します。

注意

1) 移動時は**「切」**位置にして下さい。**「入」**位置のままで旋回すると回転半径が大きくなり、内輪がスリップし、ミッションにも悪影響を及ぼします。
2) 主クラッチレバーを握ったままで操作をしないで下さい。ギヤが破損する恐れがあります。
3) 車へ乗せ降ろしや坂道、軟弱路等の走行時には安全の為**「入」**位置にしてください。

④耕深調節棒

耕うん深さの調節を行います。耕深調節棒を手前に引き、「切り欠き」から外して上下させ、再度「切り欠き」にかみ合わせてください。

- 耕深調節棒を上げる・・・**深くなる**
- 耕深調節棒を下げる・・・**浅くなる**

⑤らくらくアンカー

耕うん作業中のダッシングの発生を抑えます。作業中は必ず装着してください。

警告

1) ダッシングとはロータリー回転の反力で、本機が前方あるいは後方に勢いよく飛び出す現象で、非常に危険です。らくらくアンカーは常に装着して作業し、摩耗したら交換してください。

⑥ジャッキボルト

作業者の体格に合わせ、ハンドル高さを 3 段階で調節できます。ジャッキボルトを外して高さの調節をし、適当な高さで再度しっかりと固定してください。

⑦回動ロータリーカバー

耕うん時は固定ピンを外し、フリーの状態にしておいてください。カバーが回動することで、均平度のある平面耕ができます。

警告

1) 回動ロータリーカバーの固定は、培土板装着時及び爪交換などの整備時のみとし、それ以外は必ずフリーの状態にしておいてください。回動ロータリーカバーを固定して作業すると、手や足をカバー内に巻き込まれ、大ケガをする恐れがあります。

⑧耕うん爪

正逆両用の耕うん爪です。摩耗したら部分的な交換はせず、全ての爪を新品に交換してください。

⑨スロットルレバー

エンジン回転数の増減を調整します。

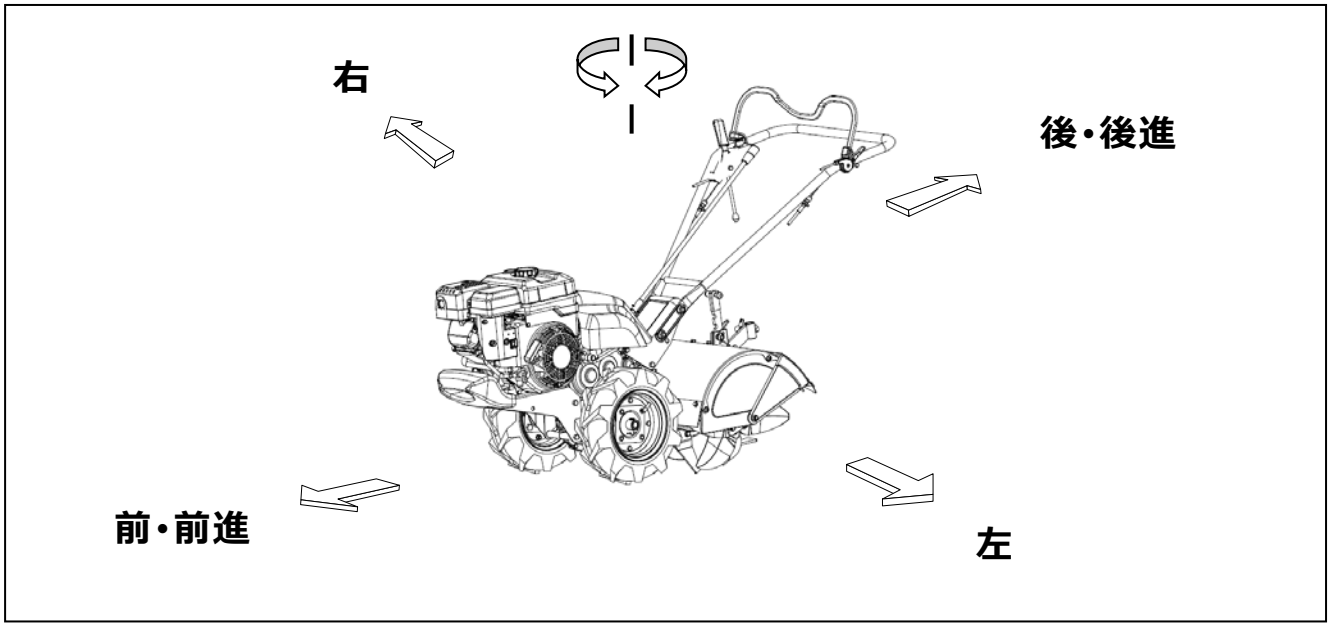
⑩エンジンスイッチ

エンジンの「運転」・「停止」の操作を行ないます。

2.3 方向について

本機の前後左右は、下図のように作業者から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者から見た方向で表します。



3．作業前の点検

●作業を始める前に「1.2 作業をする前に」を確認し、 下記の「始業前点検表」及び「7.1 定期点検表」に従って始業前点検を必ず行ってください。

※不明な点や異常な点があれば、必ずお買い上げいただいた販売店にご相談ください。

始業前点検表（定期点検表からの要約）		
	項目	点検内容
エンジン	①エンジンオイル	「オイル量、汚れ」を確認〈3.1 参照〉
	②エアクリーナ	「汚れ」を確認、清掃〈5.2.1 参照〉
	③エンジン本体	「緩み」「亀裂」の確認
	④マフラ周り	「ごみ等の詰まり」の確認、清掃
	⑤燃料チューブ、燃料フィルタ	「燃料漏れ」「劣化」「変形」「目詰まり」の確認、清掃
本機	①ナイフ（爪）	〈5.点検･整備 参照〉
	②ブレーキ(該当製品)	「1」ボルトナットのゆるみ、脱落
	③タイヤ(クローラー)	「2」変形、磨耗、干渉
	④レバー類	「3」スムーズに動くか、固着
	⑤カバー類	「4」ごみ、草、わら等の異物を取り除く
	⑥HST オイル(該当製品)	「オイル量、汚れ」を確認

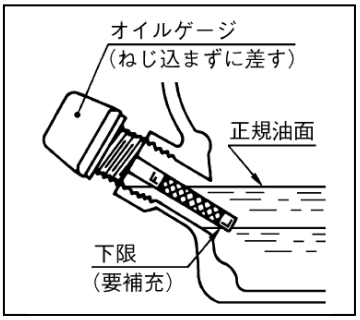
警告

1)点検、給油、調整、整備は必ずエンジンを停止してから行ってください。

2)エンジンを始動し、走行クラッチレバー等の動作確認を実施する場合は、各レバー位置と周囲の安全を確認してから行ってください。

3)本機に貼られている警告表示マークも良く読んでください。

3.1 エンジンオイルの点検



①本機を水平にしてオイルゲージを外します。

②給油口にねじ込まずに差し込んで、オイルゲージの上限と下限の間にオイルがあることを確認してください。
（給油栓がオイルゲージを兼用しています。）

③少ない場合は上限近くまでオイルが来るように補給してください。
注油するオイルの量はゲージを参考にしてください。

注意

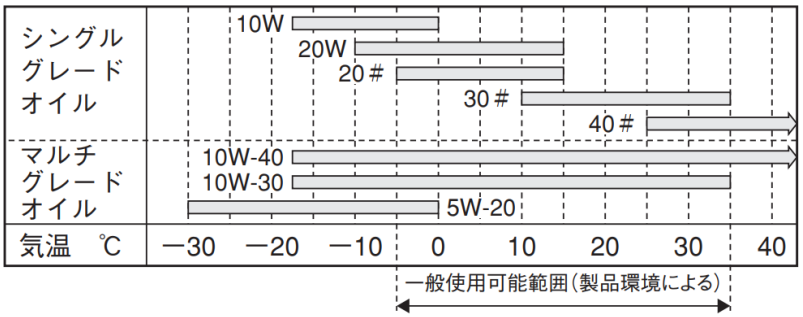
1)エンジンオイルの点検をエンジン運転後に行う場合は、エンジンの停止後「約 5 分以上」待って、マフラなどの高温部に十分注意して行ってください。

2)本機には出荷時、少量のエンジンオイルが残っています。
※始動前には必ずエンジンオイル量を確認してください。

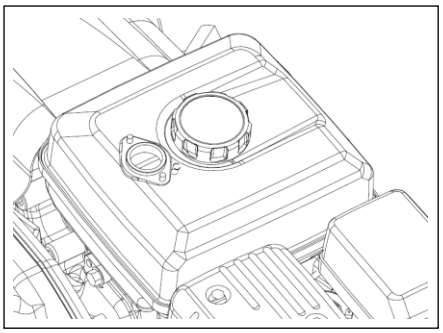
3)エンジンオイルはＳＥ級以上の良質で新しいオイルを使用し、気温によって使い分けてください。

4)補給後、オイルゲージは確実に締め付けてください。締め付けが緩いとエンジンオイルが漏れ出す恐れがあります。

「推奨オイル」



3.2 燃料の点検・給油



①油面計の針が**「E」**に近づいたら燃料を補給してください。

②給油口内のフィルターの赤いライン（規定油面上限）以下で、こぼれない様に燃料を補給してください。

〈使用燃料：無鉛レギュラーガソリン〉

〈燃料タンク容量：3.6 ﾘｯﾄﾙ〉

③補給後は燃料給油キャップを確実に締め付けてください。

※傾斜地での使用は、さらに少なく(こぼれない量に)してください。

危険

1) **作業中及び給油中に限らず機械の周辺は火気厳禁です**。
引火や火傷の危険があります。くわえタバコ、焚き火等、裸火の使用等は、機械のそばで絶対に行わないでください。

2) 給油はエンジン停止後、マフラの温度が十分下がってから行ってください。

3) 給油は必ず油面上限マーク以下(傾斜地使用の場合には更に少なく)にしてください。万一多く入れ過ぎた時はマ―ク以下になるまで抜き取ってください。また、周辺にこぼれた燃料は必ず拭き取ってください。

4) 身体に静電気が帯電した状態では行わないでください。気化したガソリンにより引火の可能性があり、火傷、火災につながる恐れがあります。

警告

1)点検・給油は平坦な安定した換気の良い場所で行ってください。

注意

1)燃料を補給する場合は、ほこり･草･雨･雪などの異物が燃料タンク内に入らないようにしてください。エンジン不調の原因になる恐れがあります。

2)無鉛レギュラーガソリン以外は使用しないでください。エンジンに損傷を与える原因になります。

3)ガソリンは自然劣化します。一ヶ月以上使用しない場合は新しいガソリンと入れ替えてください。またポリタンクに保管したガソリンも使用しないでください。不調の原因となることがあります。

4．運転･作業のしかた

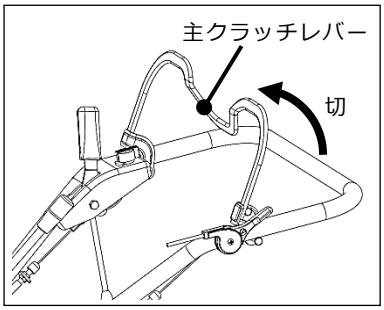
警告

※「1．使用上の注意」を運転する前に、必ずお読みください。

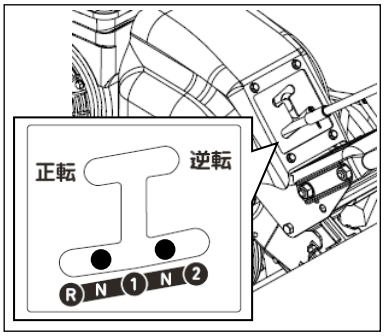
特に、「1.1 作業条件」「1.2 作業をする前に」「1.3 作業中は」をよく読み、理解したうえで運転・作業を行ってください。

4.1 エンジンの始動・停止のしかた

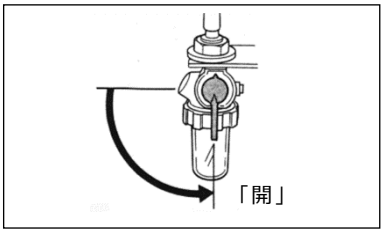
4.1.1 エンジン始動のしかた



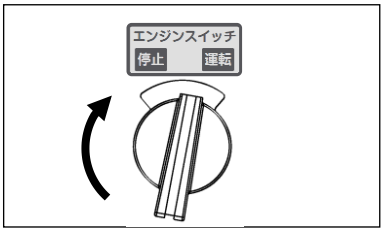
①主クラッチレバーを**「切」**位置にしてください。



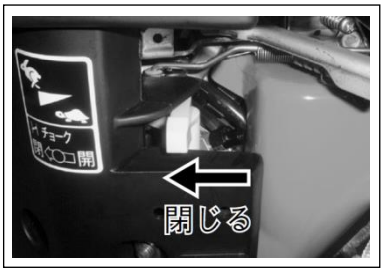
②変速レバーを中立**「N」**位置にしてください。



③燃料コックを**「開(ON)」**位置にしてください。

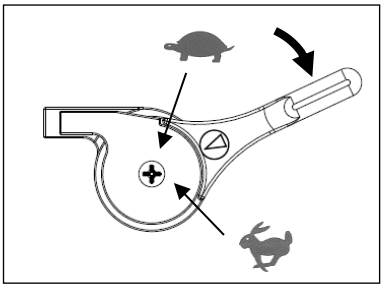


④エンジンスイッチを**「運転(ON)」**位置に回してください。



⑤チョークレバーを操作して**「全閉」** の位置にしてください。

参考；エンジンが暖まっているときは、
チョークレバーの操作は必要ありません。



⑥スロットルレバーを「🐢」と「🐇」の中間位置**「中速」**にしてください。



⑦スタータノブを握り、ゆっくりと引いて圧縮を感じる位置から勢いよく引っ張ってください。
エンジン始動後は、直ちにスタータノブを元の位置にゆっくりと戻してください。

⚠ 注意

リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか、突起物、障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。



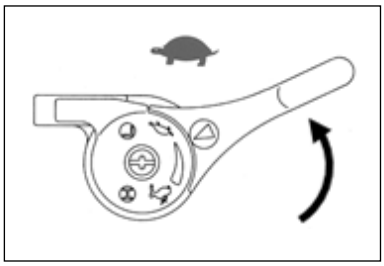
⑧エンジン始動後はチョークレバーを戻し、チョーク弁を「全開」位置にしてスロットルレバーを低速側「🐢」位置でしばらく(5 分程度)の暖機運転を行ってください。
暖機運転を行うことにより、エンジンの寿命をのばします。
※搭載エンジンによって操作方法が異なります。

⚠ 注意

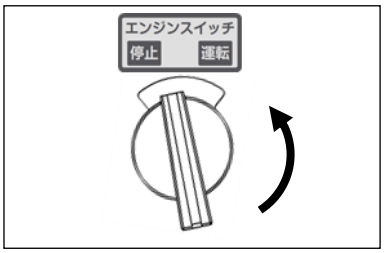
1)新製品購入後、最初の一週間(3～4 時間)は、慣らし運転期間として、過負荷をかけない様に控えめな運転を心がけてください。

2)チョークレバーを「全閉」、または「半開」位置のまま使用すると、エンジン各部に悪影響を与え、エンジンの寿命を短くしますのでご注意ください。

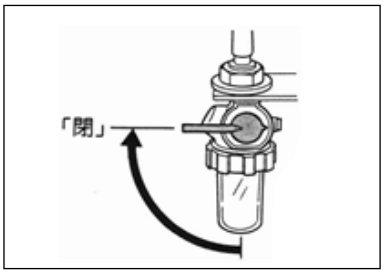
4.1.2 エンジン停止のしかた



①スロットルレバーを「🐢」位置にしてください。



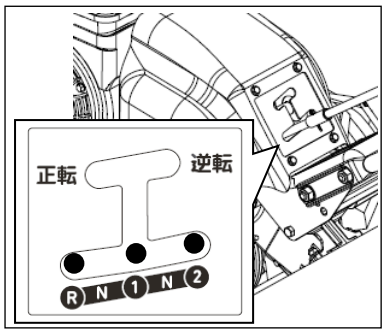
②エンジンスイッチを**「停止(OFF)」**位置に回し、
エンジンを停止してください。



③燃料コックを「閉(OFF)」位置にしてください。

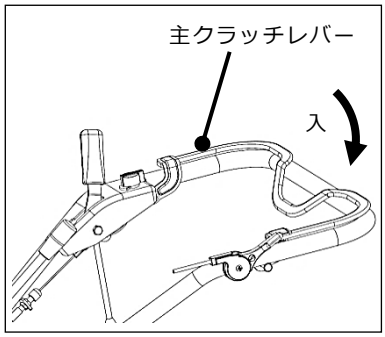
4.2 走行・変速・旋回・停止のしかた

4.2.1 走行のしかた



①エンジンを始動させてください。
〈4.1.1 エンジン始動のしかた 参照〉

②変速レバーを「前進①」・「前進②」・「後進」 の中から所要の変速位置に確実に入れてください。
正転・逆転位置には入れないでください。



③スロットルレバーを**「中速」**位置とし、主クラッチレバーをハンドルと一緒に握ると走行を開始します。

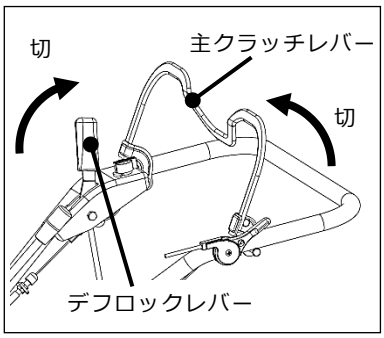
注意

1)変速操作は必ずスロットルレバーを低速「 」位置で行ってください。高速「 」位置では急発進等して危険です。

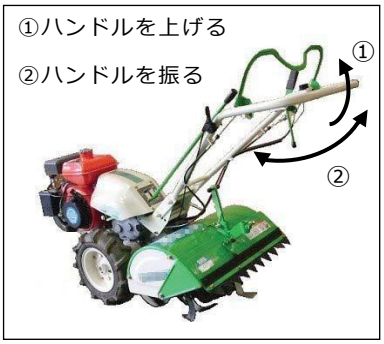
2)変速操作が不充分な場合、ギヤ抜けの恐れがあります。操作がやりにくい場合には、無理に入れずに主クラッチレバーを「入」方向へ少し動かしてから再度、操作を繰り返してください。

3)走行(移動)、旋回中は、変速レバーを「正転」「逆転」位置にしないでください。作業者や周りの人等を巻き込む恐れがあり危険です。

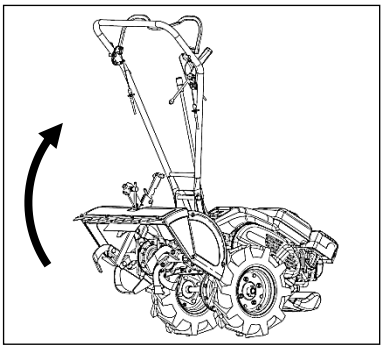
4.2.2 旋回のしかた



①主クラッチレバーとデフロックレバーを**「切」**位置にしてください。



②変速レバーを所要の位置にしてください。



③ハンドルを持ち上げてロータリー部を浮かせ、主クラッチレバーを**「入」**位置に入れて旋回してください。
〈4.2.1 走行のしかた 参照〉

※旋回半径内に障害物がないことを確認してください。

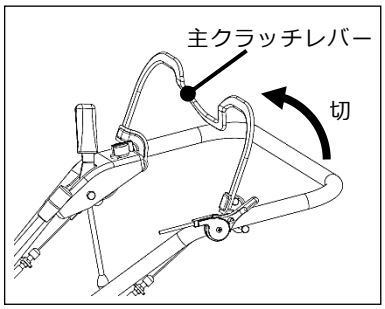
警告

旋回時、変速レバーを「正転」・「逆転」位置にしないでください。ロータリーが回転し危険です。

注意

旋回時、デフロックレバーは「切」位置にしてください。デフロックレバーを「入」位置のまま旋回すると、旋回半径が大きくなるばかりでなく、ミッションにも大きな負荷がかかります。

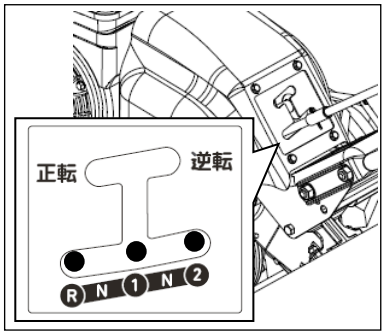
4.2.3 変速のしかた



①主クラッチレバーを**「切」**位置に戻してください。

注意

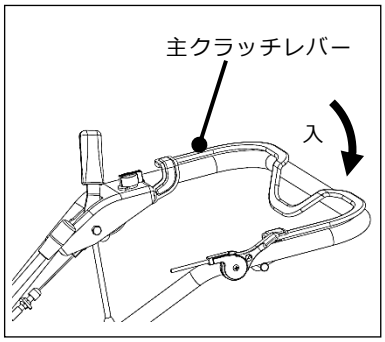
主クラッチレバーを「入」位置のまま変速操作を行なうと、危険であると同時に本機故障の原因となりますので行なわないでください。



②変速レバーを所要の位置に確実に入れ替えてください。

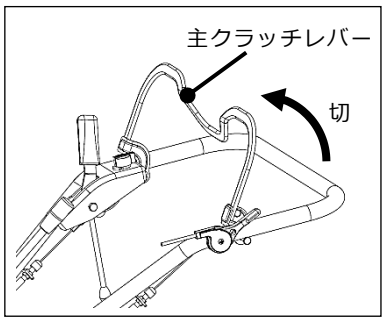
注意

移動時変速レバーは「正転」・「逆転」位置には入れないでください。ロータリーが回転し危険です。



③主クラッチレバーを**「入」**位置にして、再発進してください。

4.2.4 停止のしかた



①主クラッチレバーを**「切」**位置にして本機を停止させてください。

②変速レバーを**「N」**位置に入れてください。

③エンジンを停止してください。
〈4.1.2 エンジン停止のしかた 参照〉

警告

1) 本機から離れる場合には、必ずエンジンを停止してください。エンジンが回ったままでは暴走、または周囲の人等に危害が及ぶ恐れがあります。
2) 本機は平坦で、周辺に障害となる物がない広い場所に駐車してください。

4.3 上手な作業のしかた

危険

ビニールハウス内での作業では特に換気に注意し、有毒な排気ガスで中毒しない様、ビニールのすそを開ける等して換気には十分注意してください。

警告

1)ロータリーカバー内に堆積した泥、ロータリーに巻きついた草や紐等を除去する場合には、必ずエンジンを停止して行なってください。回転するローターに巻き込まれ大ケガする恐れがあります。回転中のローターには決して近づかないようにしてください。

2)後進する時は、障害物がない事を確認し、機械との間に挟まれない様に注意してください。

3)変速の操作は平坦地で行ない、必ず「前進①」からスタートして、状況に合わせて変速を行なってください。

4)下記のような圃場では使用を避けてください。

①人の近く。②段差がある畑や圃場。③溝の近くの畑や圃場。④石や切り株や木の根等が多い畑や圃場。⑤特に固い畑や圃場。⑥10°以上の傾斜面。⑦建物、塀、木及び車等、遮る物の近く。⑧川や池の近く。⑨濡れた粘土質の圃場等、滑りやすい場所。⑩地面の凹凸が大きいところ。

5)耕深調節棒の調整は必ず、主クラッチレバーを「切」位置にし、変速レバーを「N」位置にした後に行ってください。回転するローターに巻き込まれる恐れがあります。

6)ロータリーカバーを外しての運転は非常に危険です。事故防止のため、必ず装着した状態で使用してください。

7)主クラッチレバーは必ず手で操作し、ヒモや針金等で固定して使用しないでください。非常時に停止操作が遅れ、重大な事故を招く恐れがあります。

注意

1)新品で製品を購入後、最初の一週間は、慣らし運転期間として、過負荷をかけない様に控えめな運転を心がけてください。

2)特に固い圃場の場合、ダッシングによる衝突、腹部圧搾、転落等の事故の恐れがあります。
最初は数回に分けて、浅めの耕うんから開始してください。
※ダッシング…ロータリーの回転により本機が前進方向に勢いよく飛び出すこと。
特に固い圃場や石等の異物の多い圃場で起き易い。

参考:

1)ハンドルは中心位置とし、作業者の腰骨あたりに位置させてください。また作業中は心持ちロータリー部を地面に押し付ける感じで、ハンドルの一番広い部分をしっかりと両手で握ってください。

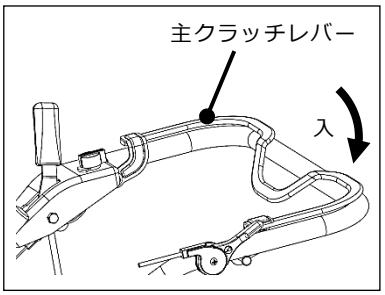
2)作業状況に合わせて、速度の調整、耕うん深さの調整を行なってください。固くしまった圃場等は浅く、数回に分けて作業を行なってください。

4.3.1 作業のしかた

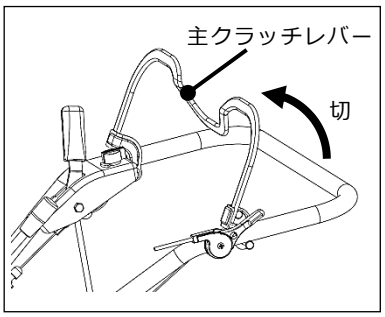


①エンジンを始動させてください。
〈4.1.1 エンジン始動のしかた 参照〉

②変速レバーを**「正転」**または**「逆転」**位置に確実に入れてください。
〈4.2.3 変速のしかた 参照〉

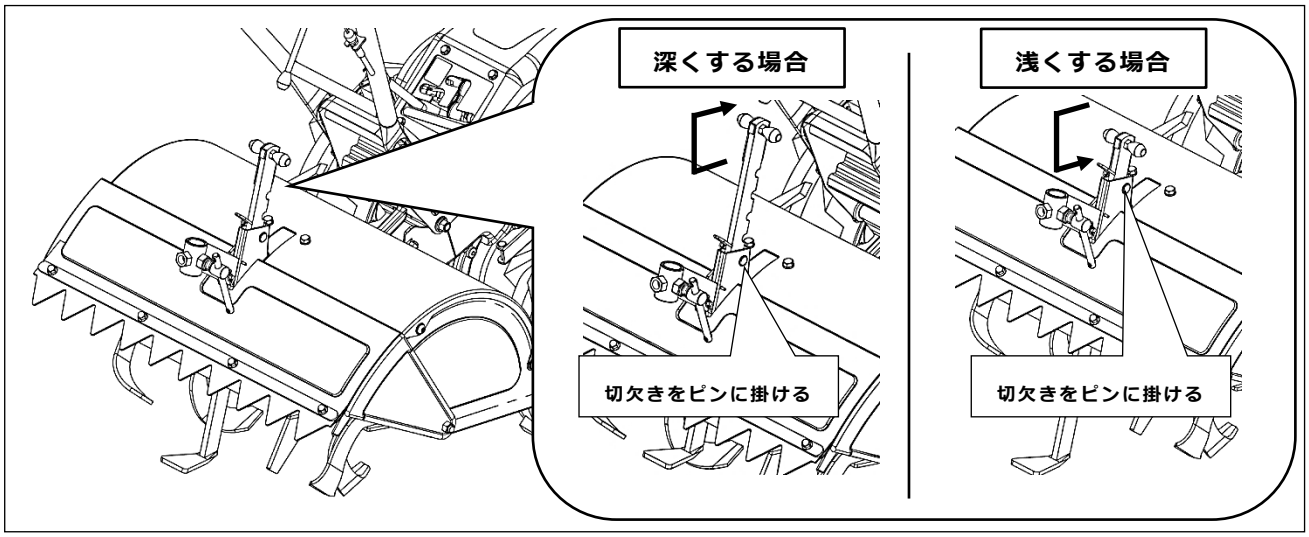


③スロットルレバーを「 」位置にして、主クラッチレバーを**「入」**位置にして作業を開始してください。



④作業を終了する場合には主クラッチレバーを**「切」**位置にし、変速レバーを**「N」**位置にしてください。その後、エンジンを停止してください。〈4.1.2 エンジン停止のしかた参照〉

4.3.2 耕うん深さの変えかた



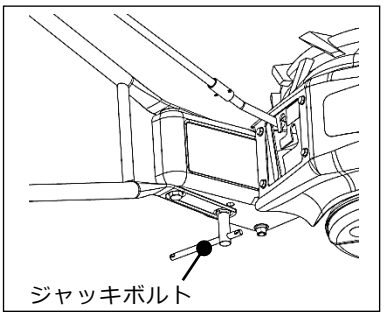
①耕うん深さの調節は、耕深調節棒の上下によって行います。調節は 6 段階です。
②耕深調節棒を手前に引き、「切欠き」から外して上下させ、所要の位置で再び「切欠き」に噛み合わせてください。

◎耕深調節棒を「上」にする・・・耕うん深さが深くなる
◎耕深調節棒を「下」にする・・・耕うん深さが浅くなる

参考:

1) 耕深調節棒の操作が重くなった時は、エンジンを停止し、ロータリーカバー内の耕深調節棒の可動部分に詰まった泥草等の異物を取り除き、エンジンオイルを注油してください。

4.3.3 ハンドル高さの調整のしかた



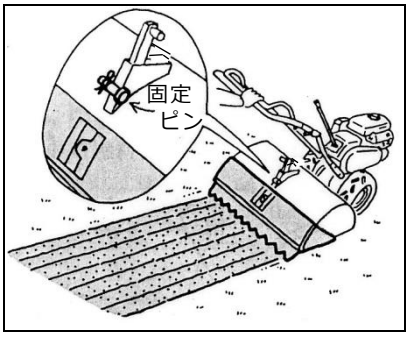
①ハンドル高さは、作業や使用者の体格によって 3 段階調整することができます。

②ジャッキボルトを外し、穴が合う適当な位置に合わせ、しっかりと締め付けてください。

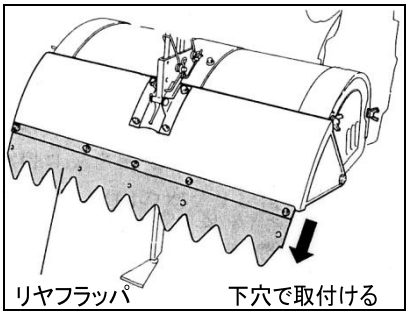
警告

ハンドル高さを調整する際は必ずエンジンを停止してから行ってください。エンジンが回ったままでは暴走、または周囲の人等に危害が及ぶ恐れがあります。

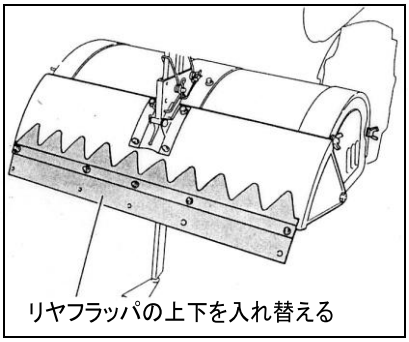
4.3.4 平面耕のしかた



①ロータリーカバーの回動ロータリーカバー固定ピンを外して作業することにより、均平度の高いすじ目の入った平面耕に仕上がります。



②リヤフラッパの取付穴位置を上下入れ替えることにより、より強いすじ目の入った平面耕に仕上がります。



③リアフラッパの上下を変えて取り付けると、すじ目の入らない平面耕に仕上がります。

4.3.5 上手な作業の例

参考：上手な作業の例

■「らくらくアンカー」が正しく取り付けられているか確認してください■

○普通の畑を耕うんする場合には 2 回位、固い畑を耕うんする場合には 3 回位に分けて仕上げるつもりで作業してください。
固い圃場での耕うん作業は、ロータリの回転は「逆転」で、軟らかい圃場での耕うん作業は、ロータリの回転は「正転」で作業を行ってください。

①1 回目

- 耕うん深さは浅めに設定してください。〈4.3.2 耕うん深さの変えかた参照〉
- 本機がダッシングする場合は、ハンドルをやや持ち上げ気味にするとスムーズな作業ができます。

②2 回目

- 耕うん深さを 1 回目より深く設定してください。〈4.3.2 耕うん深さの変えかた参照〉
- 畑の土がある程度柔らかくなっていれば、2 回目を仕上げ作業とし、耕うんが不十分な場合には、3 回目で仕上げ作業を行ってください。

③3 回目

- 耕うん深さを 2 回目より深く設定し作業してください。
  〈4.3.2 耕うん深さの変えかた参照〉

⚠ 注意

1)いずれの場合にも「らくらくアンカー」は必ず装着してください。装着しないまたは摩耗したままで作業すると、特に固い圃場の場合にダッシングが発生しやすく、大変危険です。
2)ダッシングを起こす場合には無理をせず、耕うん深さを浅めに設定し、数回に分けて作業を行ってください。
3)作業前点検時には必ず「らくらくアンカー」の摩耗具合も確認し、必要に応じて新品と交換してください。〈5.3.4 らくらくアンカーの点検と交換のしかた参照〉

4.4 積み降ろし及び運搬

危険

1)本機を運搬する時は必ずエンジンを停止し、燃料コックを「閉」状態にしてください。燃料漏れにより、こぼれた燃料が引火する恐れがあります。

2)また、必要以上に本機を傾けないでください。燃料が漏れ出す恐れがあります。

警告

1) 運搬用の車は製品に応じた車を使用してください。(積載重量、荷台のサイズ、干渉の有無)

2) 運搬用の車は平坦で安全な場所を選び、搭載時に動き出さない様にエンジンを止め、サイドブレーキを引き、車輪止めをしてください。

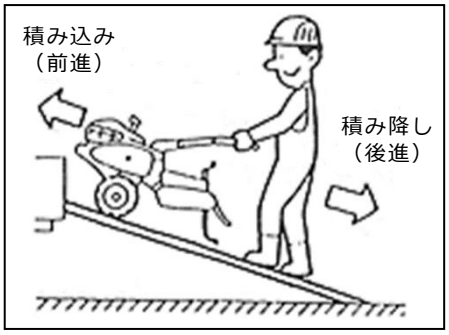
3) ナイフ･爪がブリッジと接触しない位置まで高さを調整しておいてください。ブリッジの溝に絡み、転倒する恐れがあります。また、作業クラッチは「切」位置にしてください。

4) 基準にあった丈夫なブリッジをゆるい勾配（１５度以下）で確実にかけ、エンジン回転を下げ、積み込みは「前進」で、降ろす時には「後進」で低速でゆっくり行ってください。
〈その際、ブリッジ上で走行（主）クラッチを「切」にしないでください。
また、サイドクラッチ（該当製品）、変速などのレバー操作も行わないでください。〉

5) 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意してください。

6) 運搬時は丈夫なロープ等で確実に固定してください。また、安全運転を心掛けてください。

4.4.1 積み降ろしのしかた



①周囲に危険物のない、平坦な場所を選んでください。

②基準にあったブリッジをゆるい勾配（１５度以下）で、また、製品に合わせた幅で、確実にかけてください。

③本機の車輪がブリッジの中央に位置するようにしてください。

④エンジン回転を下げ、積み込みは**「1 速」**で、降ろす時は**「R」**で低速でゆっくり行ってください。

参考：ブリッジ基準

ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用してください。

- 長さ…トラック荷台の高さの３.５倍以上あるもの。
- 幅 …本機の車輪幅にあったもの。
- 強度…本機重量､及び作業者の体重の総和に十分たえるもの。
- スリップしないように表面処理が施してあるもの。

5. 点検・整備・調整

5.1 オイルの点検・交換・注油

注意

1) 出荷時、本機にオイルは注油されておりません。初めて本機をご使用になる前には、必ず指定の箇所に指定のオイルを指定の量だけ確実に注油してください。
2) 定期的なオイル交換は、本機を常に最良の状態で使用するために是非必要です。
3) 注油は少しずつおこなってください。一度に注油しようとすると、エアが抜けずに注油口よりすぐにオイルが溢れ出ます。注油口まで油面がきていることを確認してください。
4) 各部オイルの点検・交換・注油をする場合には、必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖機運転した後に停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを「約 5 分以上」待ってから作業を行ってください。

… エンジン停止後、すぐに作業を行うと …

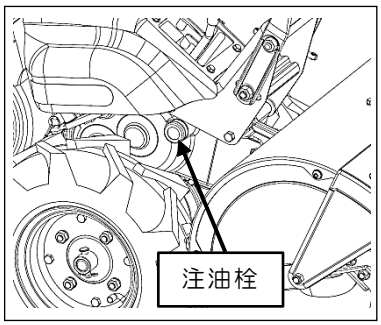
＊エンジン本体はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。

＊エンジン停止直後は各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。

■交換後の廃油は、お住まいの地方公共団体の取り決めに従い適切に処理をしてください■

5.1.1 ミッションオイルの点検・交換

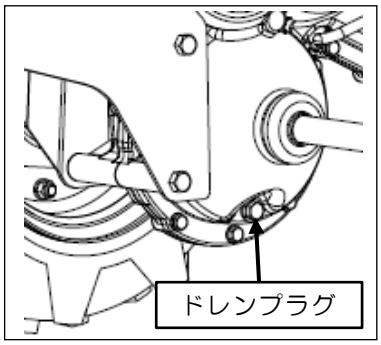
◎点検・補給… 注油量を厳守ください。



①ミッションケースの注油栓を取外してください。注油口からオイルが目視で確認できれば、ほぼ規定量のミッションオイルが入っています。

②オイルの量及び汚れを目視点検し、オイルが不足している場合、及び汚れがひどい場合には補給または全量交換(下記参照)します。

◎交　換…



③オイルを受ける適当な容器を用意します。

④ミッションケース左側面下部のドレンプラグ(排油栓)を取り外し、オイルを抜き取ります。

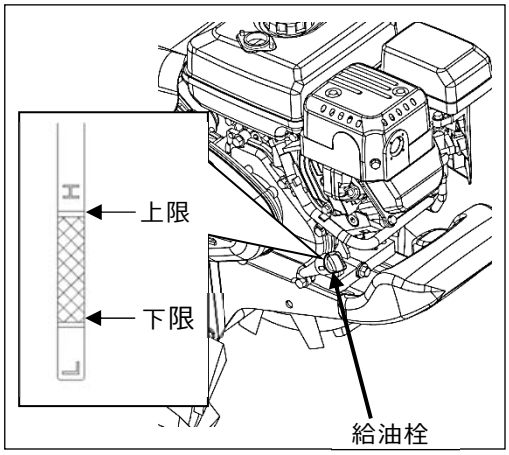
参考; 同時に注油栓も取り外しておくと、オイルが抜き取りやすくなります。

⑤ドレンプラグを確実に取り付けた後、ミッションオイル**(＃90)を 3.0** ﾘｯﾄﾙ 注油してください。

交換の目安
初回：２０時間目、２回目以降：１００時間毎

5.1.2 エンジンオイルの点検・交換

◎点検…

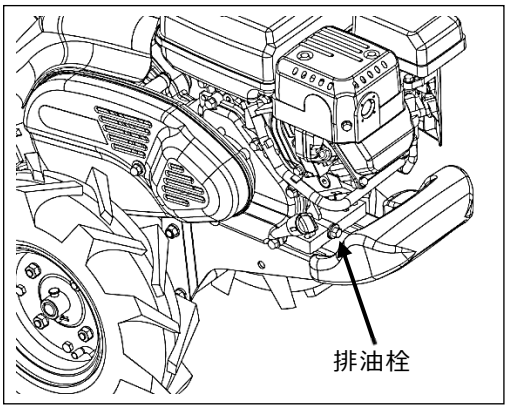


①毎運転前にエンジンを水平にしてオイルの量・質を点検してください。
〈オイルの質･量は　3.1 エンジンオイルの点検 参照〉

②図の給油栓がオイルゲージを兼用しています。

③給油栓を外し、上限と下限の間にオイルが無ければエンジンオイルを補給してください。
（給油栓はねじ込まずに差し込んで計測します。）

◎交換･給油…



④排油を受ける容器を準備し、給油栓を外し、エンジン下部の排油栓(ドレンプラグ)を取り外し、容器にオイルを排出してください。

⑤排油栓を取り付け，新しいエンジンオイルを規定量まで給油した後，給油栓を締め付けてください。

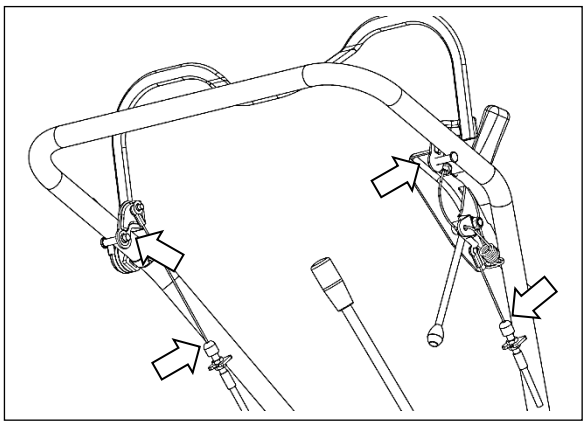
交換の目安
初回：5 時間目、２回目以降：２５時間毎

5.1.3 可動部への注油

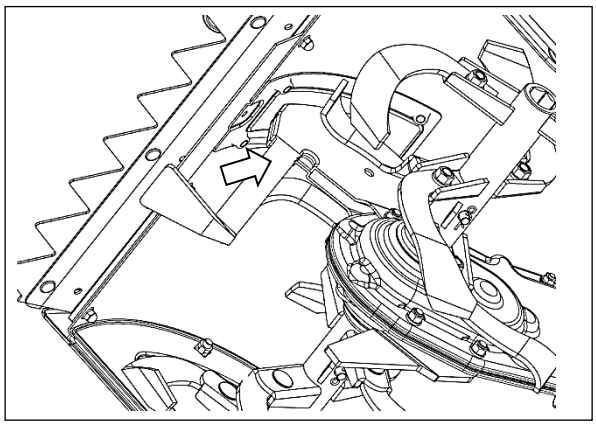
◎約３０時間毎にエンジンオイル(#30)を確実に注油してください。

⚠ 注意

注油を怠ると油切れによりサビ付や焼き付きの原因となり、操作が重くなって最悪の場合、破損の原因となる恐れがあります。



ワイヤー・主クラッチレバー支点



耕深調節棒

5.2 エンジン関連の清掃・点検・調整

5.2.1 エアクリーナの清掃

警告

エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより燃料への引火火災の原因ともなり大変危険です。必ず定期的に点検し清掃してください。

…エアクリーナを外したままエンジンを始動させないでください。…

ゴミやほこりをエンジン内部へ吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。



①カバーを取り外し、ホコリやゴミを気化器側へ入れないように注意深くエレメントを取出してしてください。

②エレメントは、白灯油で洗浄後よく絞り、乾燥させてください。その後、**新しいエンジンオイル(ＳＡＥ１０Ｗ－３０相当)に浸し、固く絞って余分なオイルを振り落としておいて下さい。(オイルを染み込ませていないと防塵効果が著しく低下します。)**

③エレメントは起毛（赤色）側を上にして取り付けてください。

④カバー内部の汚れをウエス等でふき取り、元通りに組付けてください。

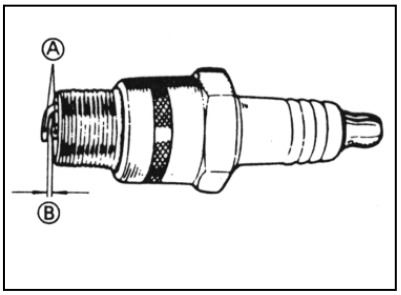
エアクリーナの清掃、交換次期について		
	清掃	交換
エレメント	毎運転前	100 時間毎

参考；

1)洗浄時、エレメントを強く引っ張ったりもんだりしないでください。
エレメントが破れ使用できなくなります。

2)チリやホコリの多い作業環境で使用した場合、エアクリーナの清掃は 10 時間運転毎または 1 日 1 回行ってください。

5.2.2 点火プラグの点検・調整



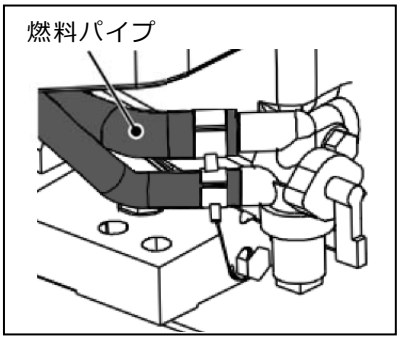
1)プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分Ⓐにカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取ってください。

2)中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換してください。

3)点火プラグの電極隙間Ⓑを 0.7mm に調整してください。

参考 ; 締め付け時は、初め手で軽くねじ込んでから(ガスケットが座面に当たるまで)プラグレンチを使用してください。初めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意してください。 <点火プラグ基準…6.1 仕様 参照>

5.2.3 燃料パイプの点検



危険

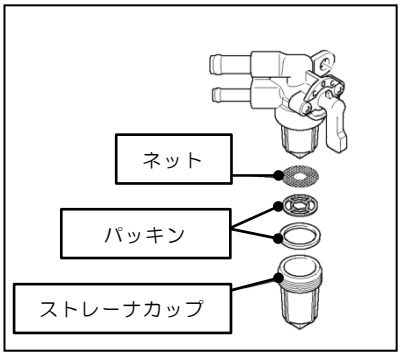
くわえタバコや裸火での作業禁止

1)燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。
締め付けバンドと共に 1 年ごと、または傷んだ時には新品と交換してください。

2)パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意してください。

参考 ; パイプ類の交換時に、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意してください。

5.2.4 燃料コックの点検・清掃



危険

くわえタバコや裸火での作業禁止

1)50 時間使用ごとに燃料コック内部を清掃してください。

2)清掃はホコリやチリのない清潔な場所で行ってください。

①燃料コックを「閉(OFF)」位置にしてください。

②ストレーナカップを外し、底にたまっている沈殿物（ゴミや水等）及びネットを引火性の低い灯油等の溶剤で洗浄し、エアを吹き付けて乾燥させてください。

警告

ガソリンやシンナー等の引火性の高い洗浄油は危険です。使用しないでください。

5.3 製品本機関連の点検・調整

注意

1) 点検･調整は必ず本機を平坦な広い場所に置き、エンジンを停止して行ってください。
2) 各操作レバーが正しく作動するか確かめてください。（毎回始業時）
3) ワイヤ･ベルトは初期伸びしますので、２～３時間運転後に再調整してください。
4) ワイヤ･ベルトは消耗品です。異常があれば新品と交換してください。
   〈サイズは 6.1 仕様 参照〉
5) 本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べてください。
6) 調整後は、クラッチレバーの「入」・「切」の動作確認を必ず行ってください。
7) 各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認し、確実に締め付けておいてください。
8) 調整のために取り外したカバー類は必ず元のとおりに取り付けてください。
9) 各部を十分に馴染ませる為、最初の２～３時間は無理な作業はさけてください。
10) 作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行ってください。〈7.1 定期点検表 参照〉
11) 本機全体を見回し、各部にオイルの漏れがないか点検してください
    ●もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談ください。
    ●オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。

5.3.1 各部ワイヤ・ベルト調整

①主クラッチワイヤ調整

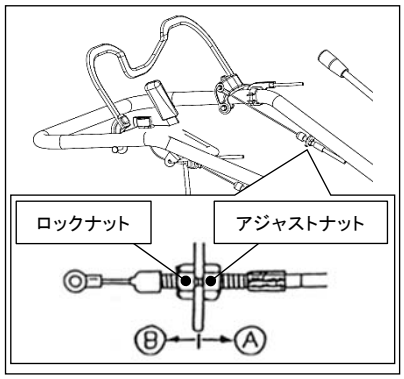


図 1

図 1 を参考に主クラッチワイヤのアジャストナットで調整してください。主クラッチレバーは**「切」**位置にしておいてください。

■ 主クラッチを入れても、負荷がかかるとＶベルトがスリップする場合。
　… **アジャストナットをⒷの方向へ** …
■ 主クラッチを切っても、Ｖベルトの切れが悪い場合
　… **アジャストナットをⒶの方向へ** …

②デフロックワイヤ調整

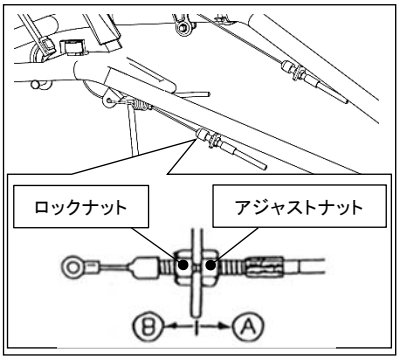


図 2

図 2 を参考にデフロックワイヤのアジャストナットで調整してください。デフロックレバーは**「切」**位置にしておいてください。

■ デフロックレバーを**「入」**位置に入れても、デフロックされない場合。

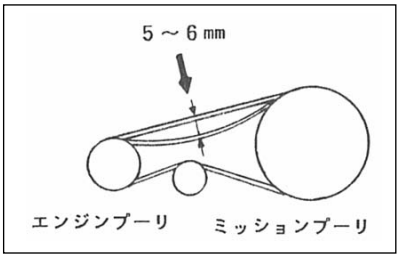
… **アジャストナットをⒷの方向へ** …

■ デフロックレバーを**「切」**位置に入れてもデフロックが解除されない場合。

… **アジャストナットをⒶの方向へ** …

> 参考； デフロックレバーが「切」位置の時、レバー根元のワイヤーの遊びが 1 ～ 3 mm 程度になるように調整してください。

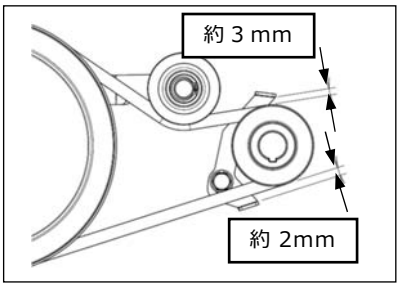
③ベルト調整



主クラッチレバーが**「入」**位置の時、ベルト中央部を軽く指で押してみて 5～6mm 程度のたわみがあれば正常です。

ベルトサイズ	ＳＡ３２　Ｗ６００　１本
調 整 時 期	初回：２～３時間目　以降：５０時間運転毎

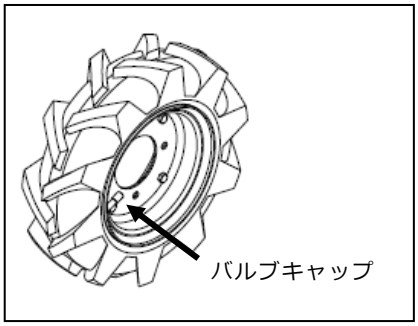
④ベルト押え調整



主クラッチレバーが**「入」**位置のとき、ベルトとベルト押えの間隔が上側で約 3 mm、下側で約 2 mm 程度になるようにベルト押さえの位置を調整してください。

■調整後は、ロックナット・ボルト等を確実に締めつけ、取り外したカバー類は元通りに取り付けておいてください。

5.3.2 タイヤ空気圧の調整



バルブキャップを取り外してタイヤの空気圧を点検し、標準値でない場合は調整を行ってください。

空気圧 kPa（Kg/ cm²）
120（1.2）

⚠ 注意

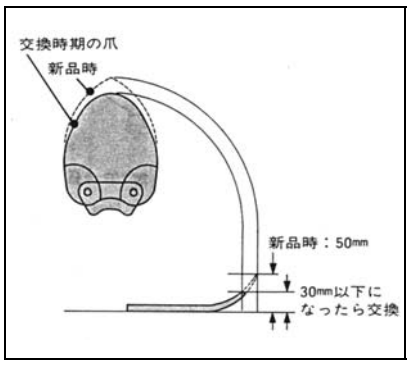
空気圧が左右均等になっていないと、作業中ハンドルを取られる恐れがあります。作業終了後はバルブキャップを確実に取り付けてください。

5.3.3 耕うん爪の点検･交換・配列

注意

・耕うん爪の点検及び交換は、必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを停止し、点火プラグキャップを外した後十分安全を確認して行って下さい。

■ 点検

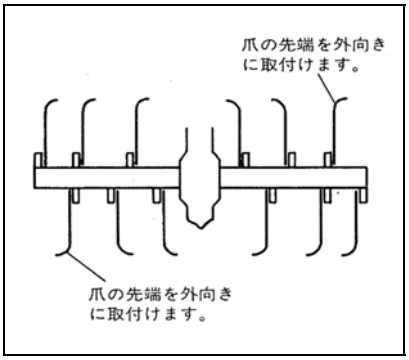


耕うん爪は始業前に必ず損傷・曲がり及び摩耗を点検して下さい。
又、爪取付部のガタがないかも点検し、もし弛みがあれば増し締めをして下さい。

■ 交換

ロータリを水平な場所に置き、爪の先端までの高さが３０mm 以下になったら交換時期です。

■ 配列

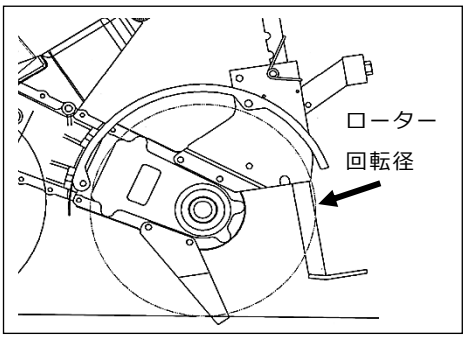


耕うん爪の取付ボルト各２本ずつを外して爪を交換して下さい。
耕うん爪を取り付ける時には、一番外側より一枚内側の爪だけ先端が外側を向くように取り付けて下さい。
他の爪は全て先端が内側を向くように取り付けます。

5.3.4　らくらくアンカーの点検・交換

警告

らくらくアンカーは消耗品です。消耗したまま使用し続けると、ダッシングの防止効果が低下し、衝突・転落等危険です。下記を参考に交換してください。



1）ロータリー爪の回転径よりらくらくアンカーが短くなったら交換時期です。また、ダッシングが通常よりも頻繁に発生する場合はらくらくアンカーの摩耗を確認してください。
2）交換の際には同じ位置に同じ向きで取り付けてください。

ロータリー爪回転径 ≦ らくらくアンカー長さ

5.4 長期保管のしかた

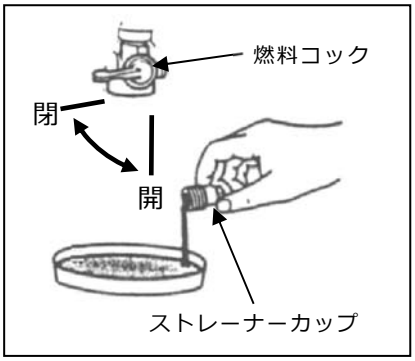
5.4.1 長期保管の準備

□ 燃料タンクやキャブレタ内に燃料を残したまま長期保管すると、
再始動困難や出力低下等のトラブルの原因となります。

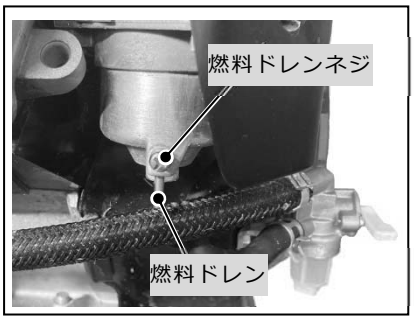
危険

1) 燃料を抜く時は風通しの良い場所で、くわえタバコや裸火等の火気には十分注意し、抜いた燃料の取扱いには十分に注意してください。
2) 燃料タンク内のガソリンを抜く時、または本機にカバーをかける時にはエンジンとマフラが十分に冷えているのを確認してからにしてください。

1)本機を３０日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、または運転不調にならないように燃料タンク及び気化器内の燃料を抜き取ってください。



①燃料タンク内の燃料
ストレーナカップを外し、受け皿等を当ててから燃料コックを**「開」**位置にして抜き取ってください。



②気化器内の燃料
燃料ドレンネジを軽く緩め、燃料ドレンから燃料を抜き取ってください。排出後は、燃料ドレンネジをしっかりと締めてください。燃料が漏れだすと、事故の原因になります。

③作業後は外した部品がしっかりと取り付けられているのを確認し、安全のため燃料コックは必ず閉めてください。

2)各部の清掃を十分に行ってください。特にリコイルスタータ・エアクリーナ・マフラ・気化器付近やベルトカバー内に堆積した泥やホコリをエア吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいてください。

3)各給脂・注油箇所に注油をして、不具合箇所は修理しておいてください。

4)屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管してください。

5)本機にカバー等をかけて、ほこりがつかないようにしてください。保管中は、定期的にタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れてください。（＊本機カバーは付属していません。）

5.4.2 次回使用時の注意

注意

1) 新鮮な燃料を使用してください。
2) 作業前の点検を行ってください。
3) 各操作レバーが正しく作動するか確かめてください。（毎回始業時）
4) 各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認してください。
5) 本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べてください。
6) 各部を十分に馴染ませる為、最初の２～３時間は無理な作業はさけてください。

6. 付表

6.1 仕様(参考数値)

名　　称		ミニ耕うん機
型　　式		ＫＲ６０１
全長×全幅×全高(㎜)		１５１０×６１０×１０６０
重　量（kg）		７８（燃料・オイル無し）
タイヤサイズ		3.50-7（Φ３５０）
ハンドル上下		3段階
主クラッチ方式		デットマンクラッチ式（ベルトテンション）
操向装置		デフ式
ベルト（本）		ＳＡ32　Ｗ６００　1本
回転数(rpm)		２２８
ロータリ		２２８
速度(Km/h)	前進	①　１．１６　　②４．４８
	後進	１．１６
耕　　巾（mm）		５００
爪　　数（本）		正逆耕うん爪　左×６・右×６（左右同一爪、計１２本）
エンジン	名　称	三菱
	型　式	ＧＢ１８１ＰＮ
	排気量（cc）	１８１
	潤滑油量（ﾘｯﾄﾙ）	0.55
	始動方式	リコイルスタータ
	点火プラグ	ＢＰ６ＨＳ
	タンク容量（ﾘｯﾄﾙ）	3.6

※本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

6.2 工具袋・同梱品明細

No.	部　品　名	規格・寸法	個　数	備　考
①	取扱説明書		1	
②	品質保証書		1	
③	エンジン工具	エンジン付属	1	
④	両口スパナ	10×12	1	
	両口スパナ	14×17	1	

6.3 消耗品明細

No.	部　品　名	部　品　番　号	個数/台	刻印	備　　考
①	Ｖベルト	0031-70900	1	ＳＡ３２	W600
②	正逆耕うん爪	80-1260-821-00	12		L, R の別なし
③	爪取付ボルトセット	83-1310-835-00	24		ボルト・ナット 各１個
④	主クラッチワイヤ	83-1260-931-10	1		
⑤	スロットルワイヤ	83-1260-951-00	1		
⑥	らくらくアンカー	0031-02100	1		
⑦	警告ラベル	0052-71400	1		
⑧	エアクリーナメンテ 警告ラベル	0328-75400	1		
⑨					
⑩					
⑪					
⑫					
⑬					

6.4 アタッチメント(別売品)

品　名	部　品　番　号	仕　様
アポロ培土板プラスＳＦ	0031-93000	大豆等の培土(土寄せ)作業
プラ溝浚器プラスＳＦ	0031-93500	畝立、培土作業
移動車輪	7-1260-510-000	本機移動用
ムーブキャスター	0031-80100	本機移動用

7．点検表

《定期点検表》

★点検や整備を怠ると事故の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は１年に１回、月次点検は１ヶ月に１回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項目		点検内容		点検実施時期		
				始業	月次	年次
原動機	本体	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○	○
		②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○
		③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○
		④エアクリーナの損傷、弛み、汚れ	損傷なく、取付部に弛み、著しい汚れはないか。	○	○	○
		⑤シリンダヘッドと各マニホルド締付部の弛み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。 ＊（正常締付トルクで弛みはないか）			○
		＊⑥弁すきま	（正規の隙間であるか）			○
		＊⑦圧縮圧力	（正規の圧縮圧力であるか）			○
		⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み。	エンジンベースに亀裂、変形はないか。 ボルト・ナットに弛みはないか。	○	○	○
	潤滑装置	①油量、汚れ。	オイルの量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか。	○	○	○
		②油漏れ。	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○	○
	燃料装置	①燃料漏れ。	燃料の漏れはないか。	○	○	○
		②燃料フィルタの詰まり。	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○	○
		③燃料の量・質。	燃料は入っているか、又質は良いか。	○	○	○
	電気装置	①電気配線の接続部の弛み、損傷。	ハーネス接続は適切か、又弛み、損傷はないか。		○	○
	清浄装置	①エアクリーナエレメントの汚れ	エアクリーナエレメントに汚れはないか。	○	○	○
		②エレメントの破損。	エレメントに破れ、スリ切れはないか。	○	○	○
	冷却系統	①リコイルカバーへの草屑等の目詰まり。	リコイルカバーが草屑等で目詰まりしていないか。	○	○	○
		②マフラへの草屑等の堆積。	マフラ周辺に草屑が堆積していないか。	○	○	○
伝達装置	ベルト	①弛み。	ベルトの張り具合は適切か。	○	○	○
		②損傷、汚れ。	亀裂、損傷、著しい汚れはないか。		○	○
	ミッション	①異音、異常発熱及び作動。	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。		○	○
		②油量、汚れ。	オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか。			○
		③油漏れ。	オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。	○	○	○
車体	車体	①亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの弛み、 脱落。	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。		○	○
	カバー	②亀裂、変形、腐食。	亀裂、変形、腐食はないか。			○
	レバー及びワイヤ	①レバー及びワイヤの損傷、弛み、ガタ、割ピンの欠損。	作動及び取付状態、著しい損傷及び弛み、ガタ、脱落はないか。	○	○	○
走行装置	タイヤ(ホイル)	①空気圧及び溝の深さ。	基準値内であること。	○	○	○
		②亀裂、損傷及び偏摩耗。	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。	○	○	○
		③金属片、石その他の異物の噛み込み。	異物の噛み込みはないか。	○	○	○
		④ボルト・ナットの弛み、脱落。	ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。	○	○	○
		⑤ガタ、異音。	取付部に異音、ガタはないか。		○	○
	表示マーク	①損傷。	警告ラベル及び銘板が損傷なく取り付けられているか。		○	○

※＊印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

7.2 エンジン不調とその処理方法

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をしてください。

現　　象	原　　因	処　　置
始動困難な場合 （始動しない場合）	スロットルレバーが「始動」の位置でない。	スロットルレバーを「始動」の位置にする。
	チョークﾚﾊﾞｰを引いていない。	エンジン冷却時、チョークﾚﾊﾞｰを 位置にする。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する。 燃料コックのストレーナを取り外し、カップ内の沈殿物を除去するとともに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	＊点火コイル、又はユニットを交換する。
	点火プラグの不調。	点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する。 新しい点火プラグと交換する。
出力不足の場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	エアクリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークﾚﾊﾞｰを完全に戻す。 位置にする。
	冷却系統が目詰まりをしている。	リコイルスタータ周辺を清掃する。
突然停止した場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが閉じている。	燃料コックを開く。
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
マフラから黒煙が出て出力が低下した場合	エアクリーナエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークﾚﾊﾞｰを完全に戻す。 位置にする。
マフラから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダ・ピストンリングの摩耗。	＊リングを交換する。
エンジン回転が安定しない（上昇しない）	チョークが完全に開いていない。	チョークﾚﾊﾞｰを完全に戻す。 位置にする。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
しばらくするとエンストする。	点火コイルの不良。	＊点火コイルを交換する。
	燃料フィルタの目詰まり。	燃料フィルタを清掃する。
排気に刺激臭がある。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。

※＊印は販売店にご相談ください。但し、有料となります。

※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談ください。

7.3 自己診断表

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参照して適切な処置をしてください。

現　　象	原　　因	処　　置
残耕が残る。	爪の摩耗。	爪を交換する。（爪交換時は全数交換）
	爪の取付が間違っている。	爪を正しく取り付ける。
ダッシングする。	作業抵抗が大きすぎる。	作業深さを浅くする。
	圃場が硬い。	数回に分けて作業する。
	らくらくアンカーが外れている又は摩耗。	らくらくアンカーの取付又は交換。
平面耕ができない。	爪の取付が間違っている。	爪を正しく取り付ける。
ベルトがスリップする。	ベルトの張力が低い。	ベルトの張力を調整する。
	ロータリーカバー内に異物が詰まっている。	ロータリーカバー内を清掃する。
	圃場が湿っている。	土が乾くのを待って作業を再開する。
	ベルトの摩耗。	新しいベルトと交換する。
タイヤがスリップする。	作業抵抗が大きすぎる。	作業深さを浅くする。
	ロータリーカバー内に異物が詰まっている。	ロータリーカバー内を清掃する。
	圃場が湿っている。	土が乾くのを待って作業を再開する。
	デフロックレバーが「切」位置である。	デフロックレバーを「入」位置にする。
デフロックレバーが入らない。	ワイヤーが伸びている。	デフロックワイヤの調整。
作業負荷が大きい。	エンジン回転が低い。	エンジン回転を上げる。
耕深調節棒が操作不能。	耕深調節棒に土や草が詰まっている。	土や草屑等の異物を取り除く。

※わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。